

裾野市
第4次子ども読書活動推進計画



令和7年3月
裾野市教育委員会

目次

はじめに	1
第1章 第4次推進計画について	2
策定の背景と趣旨	2
第2章 子どもの読書活動における現況と課題	3
I. 子どもの読書活動を取巻く現状	3
II. 第3次計画の振返り	4
1. 家庭における取組み	
2. 幼稚園・保育園における取組み	
3. 小・中学校における取組み	
4. 市立図書館における取組み	
5. 第3次計画で設定した目標指標の実績比較	
第3章 第4次計画における推進のための取組み	9
I. 基本方針	9
II. 第4次計画における具体的な取組み	11
1. 家庭における子どもの読書活動の推進	
2. 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進	
3. 学校における子どもの読書活動の推進	
4. 地域（市立図書館、関係部署）における子どもの読書活動 の推進	
5. 子どもの読書活動推進に関する理解と周知	
III. 指標の設定	18
IV. 計画の推進に向けて	18
参考資料	19

はじめに

読書は、単に知識を身に付けるだけでなく、感性を磨く、表現力を高める、想像力（創造力）を豊かにする等、生きる力を身に付けていく上で、非常に重要なものです。

情報通信技術の進歩は、子どもの読書環境にも大きな影響を与えている可能性があります。児童生徒のスマートフォンの利用率は増加しており、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等情報通信手段（コミュニケーションツール）の多様化も進んでいます。また、学校では、GIGA スクール構想により一人一台の情報端末が配布され、通信機器を活用した授業が増えています。

変化の激しい現代社会で、新しい様々な問題に対応し、溢れる情報の中から有用な情報を選び適切に活用する力を身に付け、育むという点からも、読書活動で培われる読解力や想像力等は非常に大切な力となります。

こうした状況の中、子どもの頃からの読書習慣を身に付けるには、家庭・学校・地域といったあらゆる機会や場所で、それぞれの役割に応じた読書習慣の形成を効果的に図る必要があります。

国は、平成 13 年に子どもの読書活動の推進に関する法律を制定しました。これを受けて、全国で子どもの読書活動の推進に向け、子どもの読書活動推進計画が策定されています。

本市においては、平成 19 年 3 月に裾野市子ども読書活動推進計画を策定して以降、第 3 次計画まで、市立鈴木図書館はもとより、幼稚園・保育園や学校等とも連携し、子どもの読書活動を推進してきました。

施策の方向性はこれまでの計画を踏襲しつつ、さらに子どもの読書活動の推進を図るため、第 4 次子ども読書活動推進計画を策定しました。

第1章 第4次推進計画について

策定の背景と趣旨

- 「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、「市町村は、当該市町村における子どもの読書活動の推進状況を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない」とされています。
- スマートフォンやタブレット等の普及やネット動画の視聴時間増加等の影響により、子どもの読書離れが懸念されています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による公立図書館の臨時休館や入館制限、学校でも臨時休業や図書室利用の制限等が、子どもの読書活動に影響を与えた可能性があります。これまで積み重ねてきたものを再構築し、環境の変化に合わせてながら、継続的なより充実した取組みにしていく必要があります。
- これからの社会の中で、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできない、子どもの読書活動のための環境を社会全体で積極的に整えていくことが必要であり、家庭、学校、地域等がそれぞれ連携し、子どもの読書活動のための取組みを計画的に推進するよう本計画を策定するものです。

◆関連計画等

- ・ 国 第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（令和5年3月）
- ・ 県「第三次静岡県子ども読書活動推進計画－後期計画－」（令和4年3月）

◆市のこれまでの計画

- ・ 「裾野市子ども読書活動推進計画」（平成19年3月）
- ・ 「第2次裾野市子ども読書活動推進計画」（平成26年3月）
- ・ 「第3次裾野市子ども読書活動推進計画」（平成31年3月）

（1）位置付け

位置付けとして、市の上位計画である「裾野市総合計画」、教育に関する総合的な計画の「教育振興基本計画」の下、子どもの読書活動推進に係る基本的な方向と方策を示すものとします。

（2）計画期間

計画期間は、令和7年度から令和12年度までの6年間とします。

第2章 子どもの読書活動における現況と課題

I. 子どもの読書活動を取巻く現状

(1) 子どもの読書離れ

読書活動に関するアンケートでは、「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」は増加している反面、「1ヶ月に全く本を読まない子どもの割合」は前回（2017年度）の調査に比べ増加傾向となっています。また、子どもの年齢が進むにつれて「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」が減っており、本を読まなくなる傾向となっています。

(2) 情報通信技術の発達

スマートフォンやタブレット等の普及により、様々な情報が簡単に手に入るようになりましたが、こうしたデジタルデバイスの利用（SNSや動画視聴等）の時間が増えることが、読書の時間が減る要因ともなります。デジタル技術の向上は、情報をすばやく収集する上で役立つ一方、必要な情報や信頼できる情報を選択し、活用できる力が必要であり、読解力等を身に付けるための読書活動は、なお、重要なものとなります。

また、電子書籍の普及が進みつつあり、電子媒体の読書環境の整備についても検討していく必要があります。

(3) 特別な支援を必要とする子どもを取巻く法整備

令和元年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」が施行されました。法の趣旨を踏まえ、特別な支援を必要とする子どもの読書環境の整備にも取り組む必要があります。

(4) 持続可能な社会を目指した取組み

SDGs（Sustainable Development Goals）は、17のゴールと169のターゲットで構成されており、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題を不可分なものとして解決することを目指す国際社会共通の目標です。

SDGsの17のゴールのうち、特に「4 質の高い教育をみんなに」は本計画と関わりが深い分野として、また、「11 住み続けられるまちづくりを」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」は、本計画と関連する分野として達成に向けて取り組みます。



Ⅱ. 第3次計画の振り返り

1. 家庭における取組み

(1) 推進への取組み

- 健康推進課の幼児健診、各種教室等において、待ち時間や健診等終了後に親子で絵本を読めるスペースを設置。
- 鈴木図書館で「おはなしの会」「おはなし広場」等の読み聞かせを毎月実施。
- 「乳幼児向けおすすめ絵本」のリストを作成し、来館者に配布。
- ウェブサイト、広報紙、SNS等を積極的に活用し、図書館情報を発信。
- 南児童館を会場とする『にこにこキャラバン』の中で、主任児童委員による乳幼児親子へ読み聞かせを実施。また、令和5年度からは、「すこっぷ」内、親子交流スペースでも実施。
- 児童館では『未就園児親子ひろば』『季節のおはなし会』等を通して読み語りの心地よさを体験してもらい、絵本等の楽しさを伝えた。

(2) 成果

- ◎ ファーストブック事業により、親子が家庭で本に親しむきっかけ作りができています。
- ◎ イベントの日は、イベントの前後に親子で本を読んだり、長時間滞在する親子の姿が多く見られた。
- ◎ 健康推進課や幼稚園・保育園等と連携して、読み聞かせの大切さの周知ができた。
- ◎ 児童館では、玩具等を使って遊ぶだけでなく、読み聞かせを行って時間を過ごす親子連れが多く見られた。

(3) 課題

- ☆ 親が本に親しむことが子どもの読み聞かせの機会を増やし、本を好きになることにつながるため、親が子どもと一緒に読書を楽しめる機会を提供することが必要。
- ☆ 子どもの成長に合わせて、家庭で読書に親しむ機会が増えるような啓発の工夫。
- ☆ 図書館をよく利用していただいている方が一定数いる反面、ほとんど利用したことがない市民も多い。

2. 幼稚園・保育園における取組み

(1) 推進への取組み

- 絵本コーナーを各保育室に設置し、共通の絵本コーナーからも自由に読める時間を設けた。
- 絵本コーナーに、子どもの興味関心に合った絵本を並べ、手に取りやすくしている。
- 外部研修に参加し、研修で得た知識を園内の研修等でフィードバックした。
- 園内で読み聞かせに関する職員研修を実施し、職員同士での情報交換を実施。
- ボランティアによる読み聞かせを実施。
- 家族で絵本に親しむ機会を作るため、家庭への絵本の貸し出しを実施。

- できるだけ新刊等を揃えられるよう、計画的に絵本を購入。
- 毎日、その年齢に合わせた絵本を厳選し、読み聞かせを実施。
- 参観日に読み聞かせを行い、保護者の読み聞かせに対する理解の浸透を図った。
- 子どもが選んだ本を親が読んであげる「親子の読み聞かせ」の時間を設けた。
- 幼稚園では、未就園児対象の読み聞かせや、親子で絵本を読む時間を設けた。
- 保育士おすすめの絵本を保護者へ貸し出し、家庭での読み聞かせを推奨。
- 鈴木図書館の行事を園内掲示等で紹介し、図書館や絵本に親しむ機会を周知。

(2) 成果

- ◎ 毎日の読み聞かせにより、読み聞かせを楽しみにしている園児が多くなっている。
- ◎ 園で毎日読み聞かせをすることにより、絵本にふれあう時間を確保し、忙しい家庭の支援につながっている。
- ◎ 読み聞かせが、話を聞く態度、豊かな言語、想像力等の育成につながっている。
- ◎ 絵本の貸し出しによって親子で本に親しめる機会を作っている。
- ◎ 絵本を落ち着いて見ていられる園児が増えている。
- ◎ 自分の体験と絵本がリンクし、より知識が深まったり学びにつながっている。
- ◎ 子どもが自ら本を手にとったり、保護者が手に取っている姿が多く見られる。
- ◎ 職員研修等により、読み聞かせのスキル向上が図れた。

(3) 課題

- ✧ コロナ禍以降、絵本サークル等による読み聞かせが再開できていない園もある。
- ✧ 保育園では、1対1の読み聞かせがなかなかできないため、家庭での読み聞かせの重要性を周知していく必要がある。
- ✧ 良質な絵本を上手く整備していくための工夫が必要。
- ✧ 職員の研修時間の確保が課題。
- ✧ 読み聞かせに協力してくださる方々の人数確保、実施時間の調整等が難しくなっている。

3. 小・中学校における取組み

(1) 推進への取組み

- 読書月間の設定、目標読書冊数の設定等、読書の意欲付けを図った。
- 「朝読書」や「10分読書」等の読書活動を実施。
- 図書館担当教員を中心に計画的な配架を行い、より良質な蔵書を心掛けた。
- 職員会議の中で、図書に関する時間を設け、研修を実施。
- 図書室の掲示を工夫し、新刊やおすすめ本をわかりやすく紹介。
- 図書委員会を中心に児童生徒が主体的に活動することにより、読書活動の活性化に努めている。
- 調べ学習等で、積極的に図書室を活用。
- 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ等、定期的な読み聞かせを実施。

- 「鈴木図書館パック」を活用して、資料の充実を図った。
- 職業体験や社会科見学等で鈴木図書館と連携。
- 選書に保護者や地域の方の意見を取り入れた。
- 図書館だよりを教室に掲示し、本や図書館行事の紹介。

(2) 成果

- ◎ 朝読書の時間等は、落ち着いて読書をする姿が見られる。
- ◎ 図書委員が積極的に校内で読書活動を推進しようという主体的な活動になっている。
- ◎ 鈴木図書館パックを利用することにより、調べ学習の幅が広がった。
- ◎ おすすめ本等を積極的に紹介することにより、興味を持ちやすくなっている。

(3) 課題

- ☆ 保護者による図書館ボランティアが減少傾向。
- ☆ 児童生徒の発達段階に応じた選書能力を身に付ける必要がある。
- ☆ 学校からのおたより等を使って読書に関する啓発を行っているが、その受け止め方には家庭ごとの差がある。
- ☆ 鈴木図書館パックの利用について、学校により利用頻度に差がある。
- ☆ 読書活動充実のため、学校図書館司書の配置等を検討する必要がある。
- ☆ 朝読書等の時間は作っているが、これ以上読書活動の時間を確保するのが難しい。
- ☆ 使いやすい、行きやすい図書室づくりを進めていく必要がある。

4. 市立図書館における取組み

(1) 推進への取組み

- ファーストブックの実施日を月2回から4回に増やす等、配布率の向上に努めた。
- 毎年「おすすめ絵本ガイド」(幼児版)を作成し、ファーストブック時に配布。
- 「親子おはなし広場」や「おはなしの会」の毎月実施だけでなく、年間を通じ様々なイベントで読み聞かせを実施。
- 子育て支援センターで、ボランティアによる「おはなしの会」を実施。
- 季節やその時の話題等を取り入れ、興味を引くテーマ展示を年間通じて実施。
- 「親子チャレンジ広場」「夏休みこども一日図書館司書」「小学生チャレンジ広場」「親子わいわい広場」等を開催し、図書館を身近に感じてもらえるよう努めた。
- YA(ヤングアダルト)図書大賞に選ばれた図書も展示し紹介するとともに、YAブックリストを作成し(年3回程度発行)、YAコーナーに配架。
- 鈴木図書館2階の展示スペースを学習スペースとして開放。
- オンラインで未所蔵図書のリクエストを受け付け。
- 初心者のための読み聞かせ講座等、ボランティアの養成に向けた取組みを実施。
- 全国視覚障害情報総合ネットワーク「サピエ」利用したデイジー図書の導入。
- LLブック、さわる絵本等の購入。
- 「学級文庫パック」事業を進め、学校等との連携を図った。

- 「学級文庫パック」を「鈴木図書館パック」に変更し、市内医院等にも貸し出し対象を広げた。
- 学校の施設見学や職業体験、幼稚園・保育園児の図書館見学や園外保育の受け入れ。
- 特別支援学校、学級の児童生徒の図書館施設見学受け入れや、学校と連携し、特別支援児童生徒の作品展示を実施。
- 図書館ウェブサイトや市公式 LINE 等を活用し、積極的な情報提供を行った。

(2) 成果

- ◎ 「親子おはなし広場」「おはなしの会」は親子に対する読み聞かせの場として定着。
- ◎ 新刊図書コーナーやテーマ展示で、年間を通じて様々な資料を紹介できている。
- ◎ 2階展示スペースを学習スペースとして開放することにより、中高校生の図書館利用につながった。
- ◎ おはなしボランティアの協力により毎月の読み聞かせの事業が定着している。
- ◎ 鈴木図書館パック事業により、小中学校、幼稚園保育園における選書の支援になっている。また、貸出を医院等にも拡大したため、多くの市民に図書館の本に触れてもらう機会になった。
- ◎ 施設見学に来た児童に利用者カードや読書通帳を発行し、利用の促進が図れた。
- ◎ 図書館施設見学等により特別支援児童生徒に図書館を利用してもらうきっかけづくりができた。

(3) 課題

- ✧ ファーストブックの参加率がやや減少傾向となっている。
- ✧ 読み聞かせボランティア等の確保。
- ✧ 子どもたちの調べもの学習にも対応するため、郷土資料等の充実。
- ✧ 図書館利用の幅を広げるため、電子書籍の導入等を検討する必要がある。
- ✧ 年代に合わせた本の紹介等、情報発信の拡充。
- ✧ 子ども向けデジタイズ図書や、LLブック、さわる絵本等の充実。
- ✧ 障がいを持つ子どもたちにも、図書館や学校図書室をもっと利用してもらうため、学校等との連携を強化していく必要がある。

第3次子どもの読書活動推進計画期間においては、第1次、第2次計画を踏襲しつつ、さらに子どもたちの読書習慣の定着、読書活動の推進を図るための施策を実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、特に令和2年度から4年度にかけては様々な活動が制約され、活動の停滞を招いたところもあります。それでも、様々な工夫により影響を最小限にとどめ、日々の継続した読書活動を実践してきました。

上記の通り、子どもの読書活動に対する取組みによって様々な成果があった反面、課題としてとらえている部分もあります。

子どもたちが思考力や想像力を培い、豊かな人間性を身に付けるために重要な読書習慣の定着を図るため、引き続き、家庭、学校等、地域が連携して取組みを進める必要があります。

5. 第3次計画で設定した目標指標の実績比較

	目 標 項 目	実績 (2017 年度)	目標	実績 (2023 年度)	比較
1	本を読むことが好きだと答える児童・生徒の割合	小 74.0% 中 63.7% 高 58.3%	小 80% 中 65% 高 60%	小 74.2% 中 74.3% 高 64.3%	↗* ↗ ↗
2	1 か月の読書冊数	小 4.7 冊 中 1.9 冊 高 1.4 冊	小 7 冊以上 中 4 冊以上 高 2 冊以上	小 4.7 冊 中 2.3 冊 高 1.8 冊	→ ↗* ↗*
3	1 か月に全く本を読まない子どもの割合（不読率）	小 6.8% 中 29.3% 高 17.8%	小 3% 中 12% 高 16%	小 8.3% 中 28.4% 高 22.3%	↘ ↗* ↘
4	幼児への読み聞かせをしている家庭の割合	86.9%	90%	76.3%	↘
5	ファーストブック参加率（配本率）	75.5%	85%	69.3%	↘
6	図書館の児童図書の蔵書冊数 （12 歳以下の子どもの 1 人当たり）	11.0 冊	12 冊以上	13.7 冊	↗
7	図書館の児童図書の年間貸出し冊数 （12 歳以下の子どもの 1 人当たり）	16.5 冊	20 冊以上	17.6 冊	↗*
8	図書館による「おはなし会」等の開催回数	88 回	90 回以上	62 回	↘
9	朝読書、読み聞かせ等、学校全体で取り組む読書活動を実施している学校数の割合	小 100% 中 100% 高 100%	小 100% 中 100% 高 100%	小 100% 中 100% 高 100%	→ → →
10	学校図書館図書標準を達成している学校数の割合	小 77.8% 中 80.0%	小 100% 中 100%	小 88.9% 中 100%	↗* ↗
11	「子ども読書の日」（4 月 23 日）と「こどもの読書週間」（4 月 23 日～5 月 12 日）に関連して読書啓発に取り組んだ学校数の割合	小 55.6% 中 60.0% 高 100%	小 100% 中 100% 高 100%	小 55.6% 中 20.0% 高 0%	→ ↘ ↘
12	「読書週間」（10 月 27 日～11 月 9 日）に関連して読書啓発に取り組んでいる学校数の割合	小 88.9% 中 100% 高 100%	小 100% 中 100% 高 100%	小 77.7% 中 60.0% 高 100%	↘ ↘ →

↗*は、数値は上昇したが目標値には届いていない項目

第3章 第4次計画における推進のための取組み

第3次裾野市子ども読書活動推進計画を継承し、子どもたちが、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭、学校、地域等がそれぞれの役割を果たしながら連携して子どもの発達段階に応じた豊かな読書活動を推進することを目指します。

I. 基本方針

◎子どもが読書に親しむための機会づくり

子どもが読書の楽しさを知り、読書習慣を身に付けていくためには、幼少期から読書に親しむことが重要であり、まず子どもにとって最も身近である家庭での日常的な読み聞かせや読書を推進していく必要があります。

そのため、家庭で様々な読書活動が行われるよう、鈴木図書館をはじめ、関係機関が連携して、子どもが読書に親しむ機会の提供に努めます。

◎子どもの読書活動を支えるための環境の整備

子どもの自主的な読書活動を支えるには、身近にいつも本がある、というような環境を作ることが大事です。気軽に利用できる親しみやすい図書館づくりを目指すとともに、良質な本の整備を進めます。

また、幼稚園保育園や学校等においても、読み聞かせに適した絵本や、子どもたちが興味を持って手に取るような本の整備、充実を図ります。

◎子どもの読書活動推進に関する理解と啓発

子どもは、大人から絵本や物語を読んでもらったり、身の回りの大人が読書する姿を見ることによって本への興味を持つようになります。特に保護者・教員・保育士等が読書活動に理解と関心を持ち、日々の生活の中で読書活動を進めることが、子どもに自主的な読書習慣等を身に付けさせる上で重要です。

そのため、子どもの自主的な読書活動を推進する気運を高め、読書活動の意義や重要性について広く啓発していきます。

＜計画の施策体系＞

基本方針	施策	取組み	主な活動の場
◎◎◎ 子子子 どどど ももも ののが 読読読 書書書 活活活 動動動 親親親 推推推 進進進 ををを ししし 進進進 むむむ ににに えええ るるる めめめ すすす たのた るめ るめ 理理理 ののの 会会会 解解解 ととと 境境境 づく りりり ののの 発発発 整整 備備備	1. 家庭における子どもの読書活動の推進	・本とふれあうきっかけづくり	家庭・図書館
		・読み聞かせを通した家庭での読書啓発	家庭・図書館
		・企画展示コーナーの設置	図書館
		・本に関する情報発信	図書館
		・子育て関係部局との連携	図書館・健康福祉部
	2. 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進	・読み聞かせの実践	幼稚園・保育園等
		・読み聞かせ・読書の方法についての研修	幼稚園・保育園等・図書館
		・絵本の充実	幼稚園・保育園等
		・保護者への啓発	幼稚園・保育園等・図書館
	3. 学校における子どもの読書活動の推進	・子どもの自主的な読書活動の推進	学校
		・学校図書室の有効活用	学校
		・図書資料の整備と充実	学校
		・各学校における魅力ある読書活動の充実	学校
		・家庭・地域との連携による読書活動の推進	学校・図書館
	4. 地域（市立図書館、関係部署）における子どもの読書活動の推進	・おはなし会等の読み聞かせの機会の充実	図書館
		・イベント及び各種講座の充実	図書館
		・魅力ある書架づくり	図書館
		・利用しやすい環境づくり	図書館
		・職員・ボランティアの研修の充実	図書館
		・関係機関との連携強化	図書館・健康福祉部・学校・幼稚園・保育園等
		・図書館資料の充実と有効活用	図書館・学校・幼稚園・保育園等
		・すべての子どもたちが読書を楽しむことのできる環境づくり	図書館
		・図書館見学・職場体験等の受入れ	図書館・学校・幼稚園・保育園等
	5. 子どもの読書活動推進に関する理解と周知	・「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等でのイベント実施	図書館
		・図書館だよりの発行	図書館
		・ウェブサイト等を活用した広報	図書館
		・読書活動に関する研修会の実施	図書館

Ⅱ. 第4次計画における具体的な取組み

1. 家庭における子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、乳幼児期からの言葉かけやふれあいながらの絵本の読み聞かせ等から形成されていきます。それは、読んでくれる人との信頼感の形成にもつながります。幼い時からの読み聞かせは、保護者と子どもが愛情を深める大切な時間になることはもちろん、子どもが成長していく上で必要な思考力や判断力、想像力等を身に付けるきっかけになります。子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、こうした子どもの能力を培う読書は、ますます重要になってきます。

ファーストブック等で初めて絵本に出会った子どもが、引き続き絵本を楽しんでもらえるよう、読み聞かせボランティア等と連携し、多くの本とふれあう機会を作ります。

<具体的な取組み>

取組み	内容
・本とふれあうきっかけづくり	・0歳からの読書習慣の形成を促すため、絵本を手渡すファーストブック事業を継続して行います。 ・図書館に興味を持ち、気軽に図書館を利用してもらえるよう、様々なイベント等を企画します。 ・ベビー&キッズタイムを設け、小さい子どもや親子連れが気兼ねなく図書館を利用できるようにします。
・読み聞かせを通した家庭での読書啓発	・親子おはなし広場等での、絵本の読み聞かせを通して、子どもと本の出会いの場を提供し、家庭でも読書を楽しめるように啓発します。
・企画展示コーナーの設置	・テーマを設け、子どもの興味・関心にこたえる、読み聞かせに適した図書を紹介していきます。
・本に関する情報発信	・年齢に応じた本を紹介するため、「おすすめ本ブックリスト」等のリーフレットや「図書館だより」を発行し、家庭での読み聞かせ・読書を推進します。
・子育て関係部局との連携	・健康推進課の健診等で絵本を自由に読める場所を設け、絵本とふれあう場を作ります。 ・妊娠期から赤ちゃんの心と言葉を育むことの大切さを啓発していきます。 ・こども家庭センター「すこっぷ」親子交流スペースの機能を拡充し、絵本の充実を図るとともに、読み聞かせ等を実施します。 ・鈴木図書館パックを活用し絵本の充実を図ります。 ・こども家庭センター「すこっぷ」親子交流スペースや、健康推進課の各種健診時に図書館行事の案内（チラシや図書館だより）を配布し、PRに努めます。

2. 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進

幼稚園・保育園等での読み聞かせ等の読書活動は、子どもが本にふれたり、保護者が家庭で読み聞かせを進めたりするきっかけにもなり、子どもの読書習慣の定着にとって非常に大きな役割を果たしています。また、人格の基礎が形成されるこの時期に絵本を通じて行われる情操教育は、子どもの心の成長にとって非常に重要なものです。

園ごとに工夫を凝らし、毎日の保育活動の中に読み聞かせを位置付けて実践していきます。また、絵本の展示等についても工夫し、読みたいときに手に取ることができたり、保護者にも良質な絵本の情報提供ができるよう努めます。

<具体的な取組み>

取組み	内容
・読み聞かせの実践	・日々の保育の中で、読み聞かせを実施し、本とふれあう機会を作ります。 ・保護者や地域のボランティアの協力を得ながら読み聞かせ等の機会を作ります。 ・絵本の楽しさを子どもたちが感じてくれるような読み聞かせを心掛けます。
・読み聞かせ・読書の方法についての研修	・読み聞かせや読書指導の方法について、研修の機会を設け、読み聞かせに関する知識向上を図ります。 ・職員間での情報交換や鈴木図書館との連携等により読み聞かせのスキル向上を図ります。
・絵本の充実	・より良質な絵本の選書に努めます。 ・新刊等も揃えられるよう計画的に絵本を購入します。 ・子どもたちの興味を引くような本の展示に努めます。 ・幼稚園教諭・保育士同士でおすすめの本の情報提供をし合う等、情報共有に努めます。 ・「鈴木図書館パック」を活用し、読み聞かせや絵本の充実を図ります。
・保護者への啓発	・おたより等を活用して、家庭での読み聞かせの重要性等を啓発して行きます。 ・保育参観等で読み聞かせの様子を見てもらうことにより、家庭での読み聞かせを啓発していきます。 ・絵本の貸出を行い、家庭での読み聞かせや読書を推奨します。

3. 学校における子どもの読書活動の推進

学校は、従来から学習活動を通して子どもの読書活動を推進しており、児童生徒の読書習慣を形成していく上で大きな役割を担っていますが、外国語教育等、新たな教育活動も増えており、これ以上読書活動に取り組む時間の確保が難しい状況です。

しかしながら、学校での読書活動の必要性は十分認知されており、学校ごとに地域との連携等、工夫をしながらそれぞれの年齢に応じた読書環境を学校教育の中で整えています。

学習指導要領においても学校図書館の計画的な利活用を通じて、児童生徒の自主的・自発的な読書活動の充実を図ることが示されています。これまでの学校での読書活動や読み聞かせ等の取組みについて、今後も継続していくとともに、こうした読書活動の一層の推進と調べ学習等を通して、子どもたちの自主的・自発的な読書活動が行えるよう取組みます。

<具体的な取組み>

取組み	内容
・子どもの自主的な読書活動の推進	・読書時間の確保や読書の動機付け等を行い、より多く本に触れる機会を作ります。 ・学年だより等を利用し、家庭での読書活動を推奨します。
・学校図書室の有効活用	・司書教諭や図書担当教諭の学校図書館の運営に関する情報交換を積極的に行い、図書室の充実を図ります。 ・図書委員会等を中心に、児童生徒自らが魅力ある図書室の運営を進めます。 ・調べもの学習等、授業の中で図書室を有効活用します。 ・図書室以外(学級文庫等)にも本を並べ、児童生徒が気軽に本を手にとれるようにします。
・図書資料の整備と充実	・子どもたちの様々な興味・関心にこたえるために、図書資料を計画的に購入し、図書標準を満たすよう整備します。 ・鈴木図書館パックを活用し、図書の充実を図ります。 ・図書館からの新着図書案内等の情報を参考に、学校における良質な図書選定を行います。 ・児童生徒の声を反映させた選書に努めます。 ・教員のおすすめ本を紹介したり、購入します。
・各学校における魅力ある読書活動の充実	・読書冊数を決めて目標をもたせる等、積極的に読書する意欲を高めるようにします。 ・季節や時事に合わせた本の紹介や展示を行います。
・家庭・地域との連携による	・地域ボランティア等による読みきかせの機会を作

読書活動の推進	ります。 ・図書ボランティア等の協力を得て、学校図書室の充実を図ります。 ・学校での読み聞かせの様子をホームページやおたよりで紹介し、家庭での読書活動を啓発します。 ・鈴木図書館の「図書館だより」等を掲示し、図書館の使用を推奨します。
---------	--

4. 地域（市立図書館、関係部署）における子どもの読書活動の推進

図書館は、子どもたちにとって、読みたい本と出会い、読書の楽しみを知ることのできる場所であり、読書活動の拠点として、より多くの方に利用してもらう施設にすることが求められています。

子どもたちとその保護者が気軽に利用しやすく、質の高いサービスが提供できるよう努めるとともに、より良い読書環境の整備と読書意欲を向上させる事業を推進していきます。

読書活動の推進を先導する図書館として、学校等や関係機関との連携により、様々な活動に取り組んでいきます。

また、乳幼児期からの本との出会いを大切にし、豊かな感受性や探究心を育み、親と子が気軽に集い、ふれあう子育て支援として、乳幼児期から多様な読書体験活動にふれることのできる取組みを推進します。

<具体的な取組み>

取組み	内容
・おはなし会等の読み聞かせの機会の充実	・読み聞かせボランティアと連携し、乳幼児～小学生を主な対象に、発達の段階に応じた読み聞かせを実施します。 おはなし会 親子おはなし広場 子育て支援センターおはなし会 等 ・幼稚園・保育園や、市内で活動する団体を対象に大型絵本やパネルシアターの資料を貸出し、読み聞かせ等の活動を支援します。
・イベント及び各種講座の充実	・図書館に訪れる機会を増やすことにより、来館した子どもたちやその保護者に、より多くの本を手にとってもらえるよう、各種イベント（図書館まつり等）や講座を開催します。
・魅力ある書架づくり	・乳幼児コーナーや、ヤングアダルトコーナーを設置する等、年齢に応じた本を手にとることができるよう、図書の充実や展示方法の工夫をします。 ・季節やニュース等で話題となっている事柄に関連する本の展示コーナーを設置し、読書への関心を高める工夫をします。
・利用しやすい環境づくり	・落ち着いた空間での読書や、くつろぎながら読書できるスペースを設け、明るく憩いやすい空間づくりに努めます。また、親子が本を通じてよりふれあうことのできる空間づくりに努めます。 ・図書館に来なくても本を楽しむことができるよう、電子書籍について情報収集を進め、導入について検討

	します。
・職員・ボランティアの研修の充実	・県立図書館等が開催する研修へ積極的に参加し、職員の資質の向上を図ります。 ・講師を招いた研修会を実施し、職員のスキルアップを図ります。 ・ボランティアをはじめとする、読み聞かせを行う方への研修会を開催し、地域で活躍するボランティアの方々を支援します。
・関係機関との連携強化	・学校や幼稚園・保育園等と連携して今後も団体貸出や施設見学等の受け入れを積極的に行っていきます。 ・学校での調べ学習に対応できるよう、学校と連携して必要な図書を購入していきます。 ・新着図書等の情報提供を行い、学校や幼稚園・保育園等における図書選定の支援を行います。 ・健康推進課の各種健診、教室で読み聞かせの啓発や、図書館イベントの紹介等をします。 ・特別支援学校の児童生徒の施設見学や、作品展示等を行い、図書館を利用してもらうきっかけづくりをします。
・図書館資料の充実と有効活用	・様々なニーズを捉え、計画的に図書の購入を進めるとともに適切な除籍等を実施することにより、良質な図書の整備に努めます。 ・大型絵本や紙芝居等を計画的に整備します。 ・多くの子どもたちに図書館の本を読んでもらえるように、鈴木図書館パックの利用拡大を図ります。 ・子どもたちがより多くの本を手に取り、読書を楽しめるよう、図書館の除籍図書や寄贈図書を学校等に提供します。 ・リサイクルブック事業では、児童書も対象とし、市民に提供します。
・すべての子どもたちが読書を楽しむことのできる環境づくり	・障がいのある子どもや母国語が日本語以外の子どもにも、本を楽しんでもらえるよう、デイジー図書やLLブック、朗読CD、外国語の図書等の充実を図ります。 ・拡大読書器、ルーペ、リーディングトラッカー等、読書サポート用具の整備を進めます。 ・朗読ボランティアの活動を支援します。
・図書館見学・職業体験等の受け入れ	・図書館見学や中学生の職業体験の積極的な受け入れ、一日図書館司書体験等により、図書館の利用方法や読書の楽しみを体感する機会を作ります。

・図書館利用の勧奨等	・関係部署や学校等と連携し、多くの子どもが図書館利用カードを持つように呼びかけていきます。 ・読書通帳を周知し、子どもたちの読書への動機付けを図ります。
------------	---

5. 子どもの読書活動推進に関する理解と周知

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、広く市民が理解し、関心を深める必要があります。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」の中で、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるため、4月23日を「子ども読書の日」と定めています。「子ども読書の日」や「読書週間」等、様々な機会をとらえ、子どもの読書活動についての周知・広報を図っていきます。

また、身近な大人に絵本や物語を読んでもらうことや、大人が読書に親しむ姿を見ることは、子どもが読書をするきっかけにもなります。このことから、保護者や子どもの読書に関わる大人に対しても、読書活動の意義や重要性について広く普及・啓発を図るよう努めます。

加えて、読書活動の推進を図るためには、様々な機会や媒体を利用して広報することも重要です。保護者や地域の大人たちに向けて、読書推進の取組みを広く周知していきます。

＜具体的な取組み＞

取組み	内容
・「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等でのイベント実施	・「子ども読書の日」（4月23日）や「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）を中心として読書に親しんでもらえるようなイベント・企画を行います。
・図書館だよりの発行	・図書館だよりを毎月発行し、図書館の魅力を発信します。 ・図書館だよりを、市内の学校や園、関連部署等へ配布するとともに、保育士や教諭向けの読書に関する情報提供を行います。
・ウェブサイト等を活用した広報	・図書館のウェブサイトや市の公式LINE等を活用し、子どもの本に関する情報を広く人々に届け、子どもの読書活動の普及・啓発に努めます。 ・すその子育て応援アプリとリンクして、図書館の情報を提供します。 ・大人が読書を楽しむための情報も積極的に発信します。
・読書活動に関する研修会の実施	・子どもの読書活動に関わる大人を対象とした講座や研修会を実施し、読書活動の意義や重要性について普及・啓発を図るよう努めます。

Ⅲ. 指標の設定

子ども読書活動推進計画の推進状況を概観できる指標を使って、数値目標を設定します。
この指標の達成状況の把握によって、進捗を確認します。

	目 標 項 目	実績 (2023 度)	目標 (2030 年度)
1	1 か月に全く本を読まない子どもの割合 (不読率) ※ (調査対象：小学校 5 年、中学校 2 年)	小 6.7% 中 28.4%	小 5% 中 26%
2	おはなし会、おはなし広場等への参加者数	1,035 人	1,400 人
3	ファーストブック参加率 (配本率)	69.3%	75%
4	鈴木図書館入館者数	104,505 人	120,000 人
5	鈴木図書館パックの利用団体数	8 団体	15 団体
6	図書館の児童図書の間貸出し冊数 (12 歳以下の子どもの 1 人当たり)	17.6 冊	20 冊以上
7	学校図書館図書標準を達成している学校数の割合	小 88.9% 中 100%	小 100% 中 100%
8	「こどもの読書週間」(4 月 23 日～5 月 12 日) や「読書週間」(10 月 27 日～11 月 9 日) に関連して読書啓発に取り組んだ学校数の割合	小 77.7% 中 60.0%	小 100% 中 100%

Ⅳ. 計画の推進に向けて

子どもの読書活動の総合的で継続的な推進のためには、図書館をはじめとする地域や幼稚園・保育園、学校等がそれぞれの役割を果たし様々な取り組みをしていくこと、そして、家庭における読書活動を習慣化することが非常に重要です。

そのために、「第 4 次裾野市子ども読書活動推進計画」に基づいて、子どもの読書活動にかかわるすべての関係者が連携、協力し、まちぐるみで子どもの読書活動を推進していきます。

参考資料

読書活動に関するアンケート

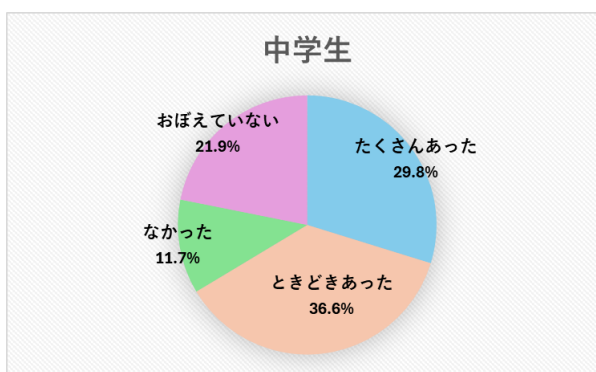
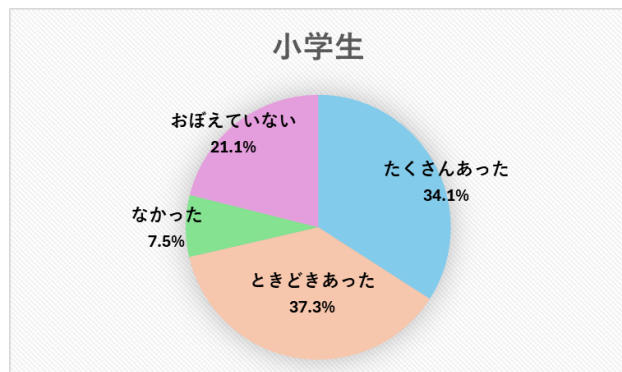
1. 調査対象

小学生 市内公立小学校 9 校 5、6 年生（アンケート回答率 93.9%）

中学生 市内公立中学校 5 校 2 年生（アンケート回答率 88.6%）

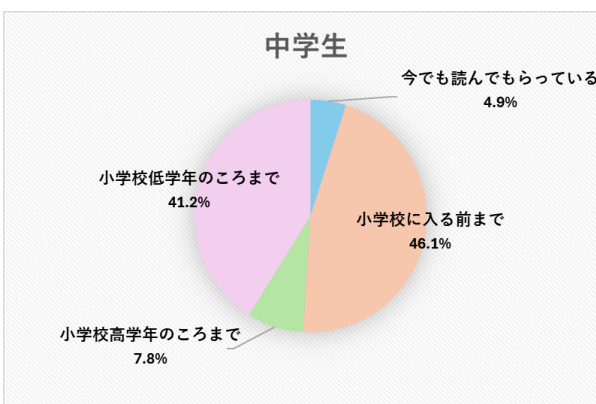
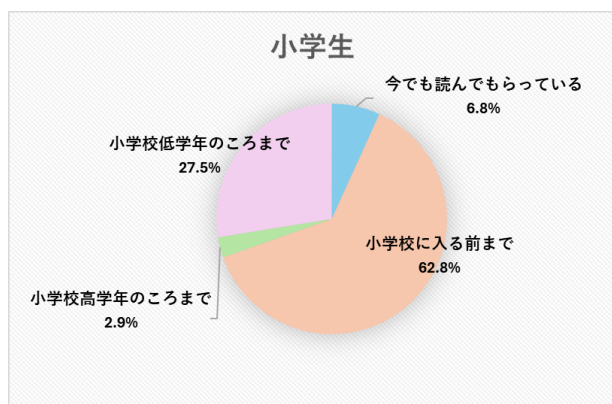
高校生 市内公立高校 全学年（アンケート回答率 58.5%）

あなたは、幼稚園・保育園、学校以外で、誰かに本を読んでもらったことがありますか？

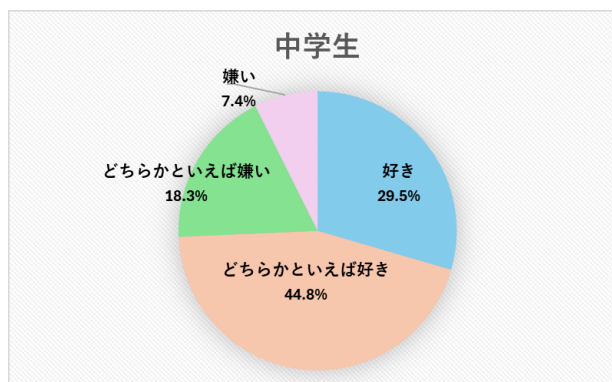
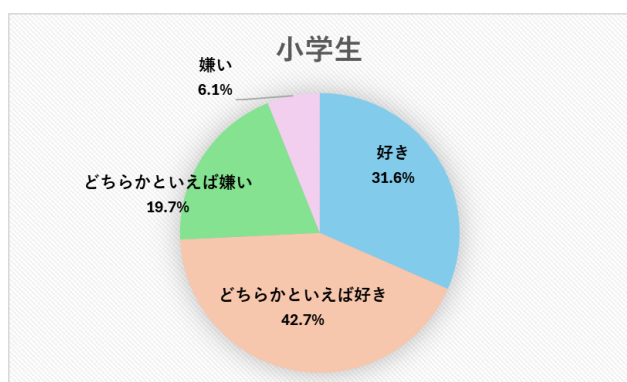


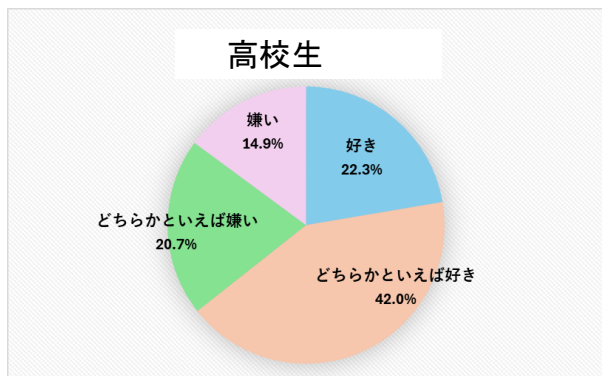
（前問で「たくさんあった」「ときどきあった」と答えた方）

いつごろまで読んでもらっていましたか

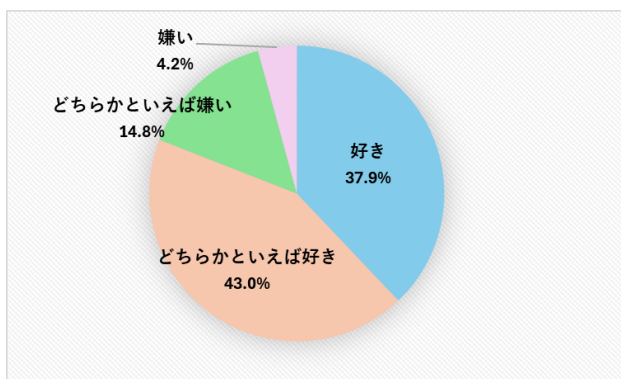


あなたは本を読むことが好きですか？

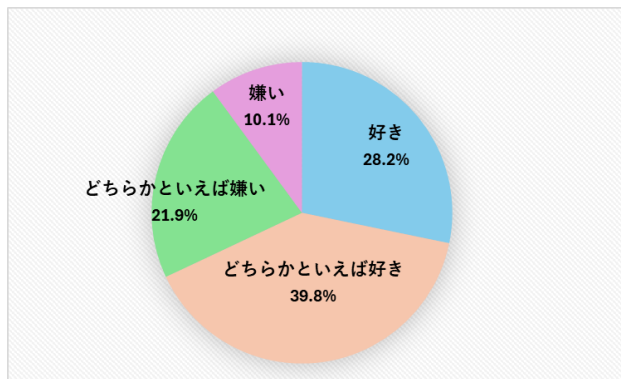




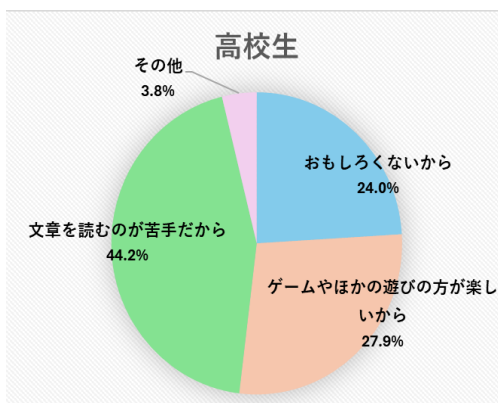
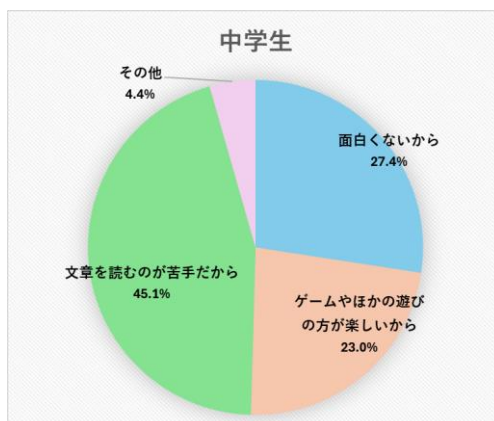
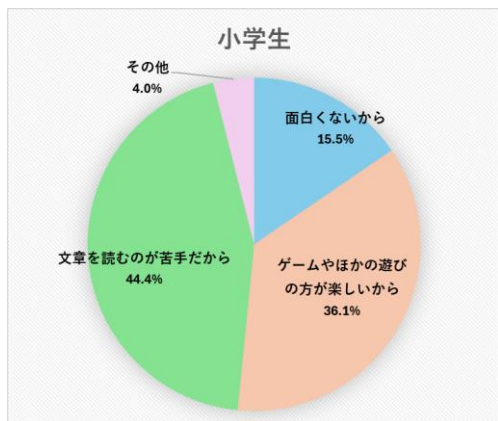
読み聞かせの体験が「たくさんあった、ときどきあった」と答えた人の本を読むことが好きかどうかの割合



読み聞かせの体験が「なかった、おぼえていない」と答えた人の本を読むことが好きかどうかの割合

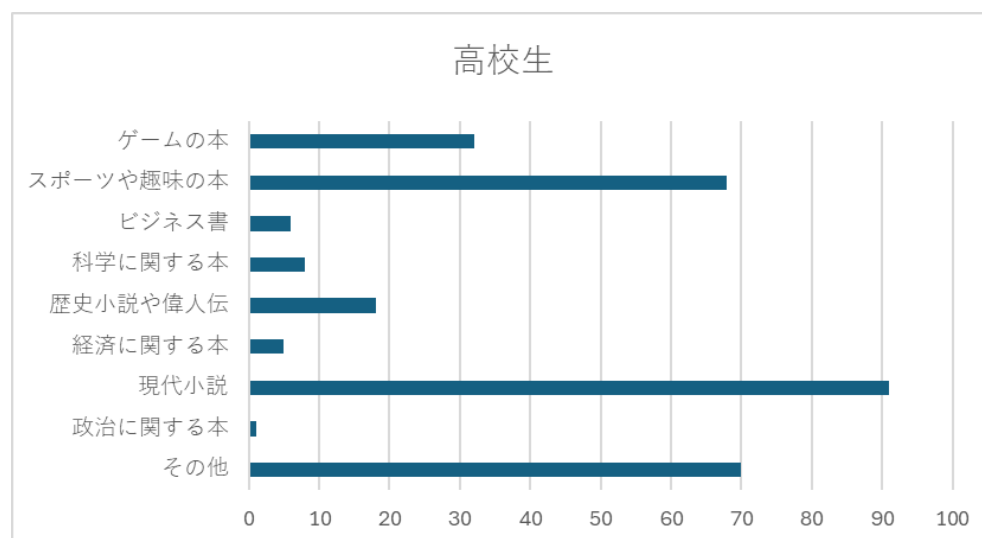
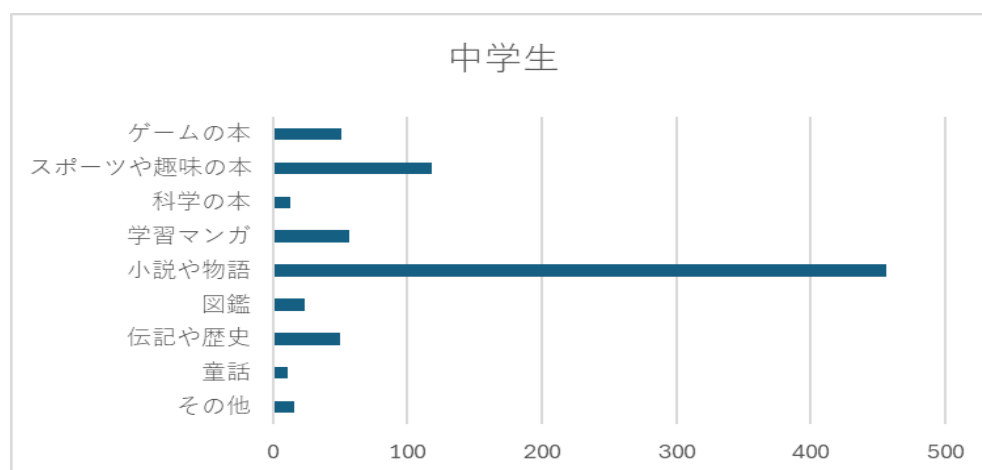
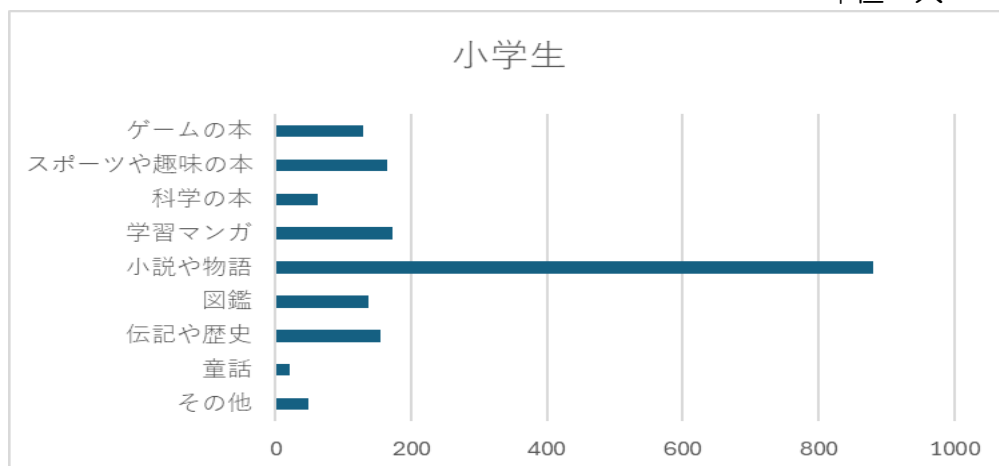


(前問で「③どちらかといえば嫌い」「④嫌い」と答えた方)
その理由はなんですか？



あなたは主にどんなものをを読みますか？ ＊（複数回答可）

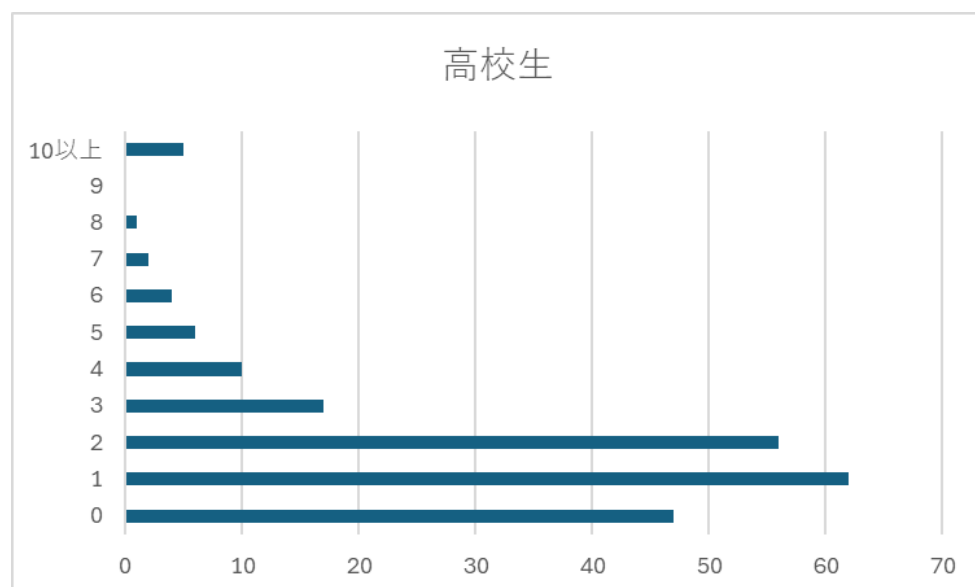
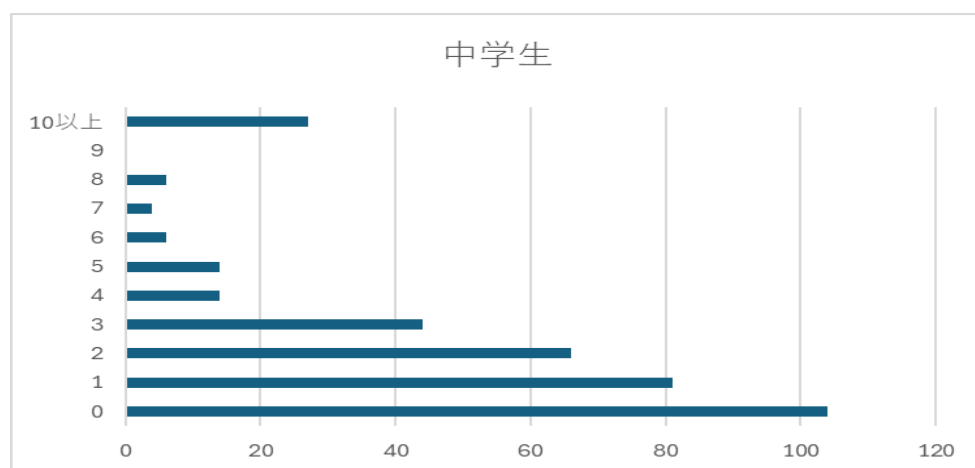
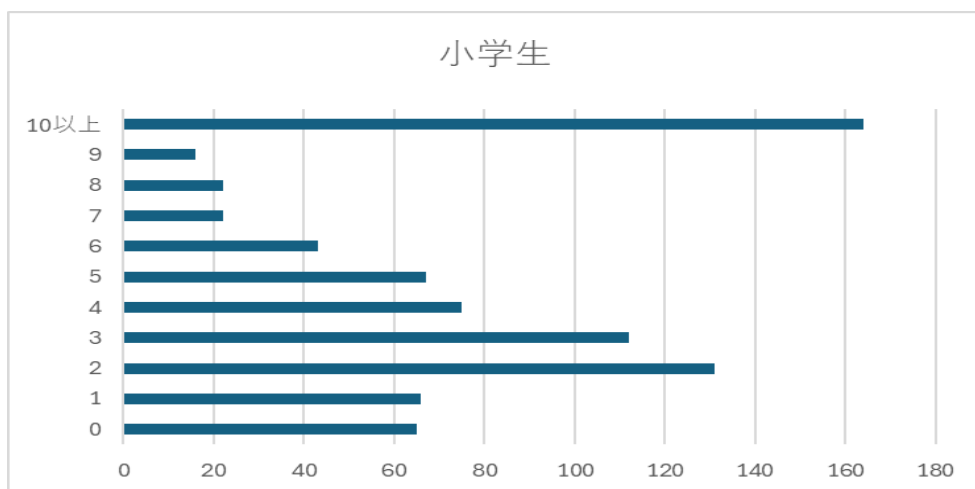
単位：人



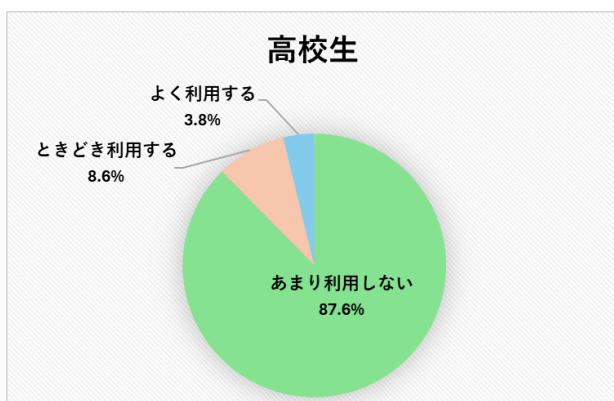
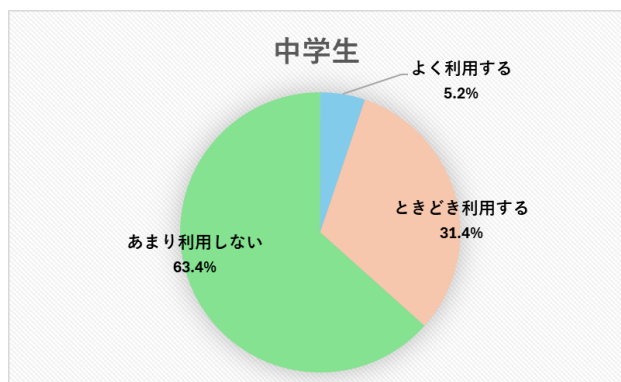
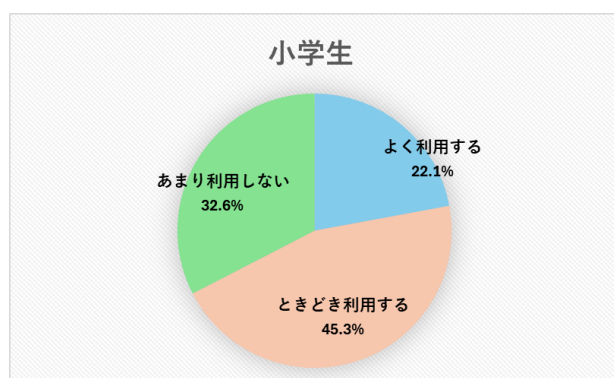
あなたはこの1ヶ月間に、本を何冊ぐらい読みましたか？

借りて読んだ本も入れて下さい（教科書・資料集・学習参考書・雑誌・マンガを除きます）。

単位：人

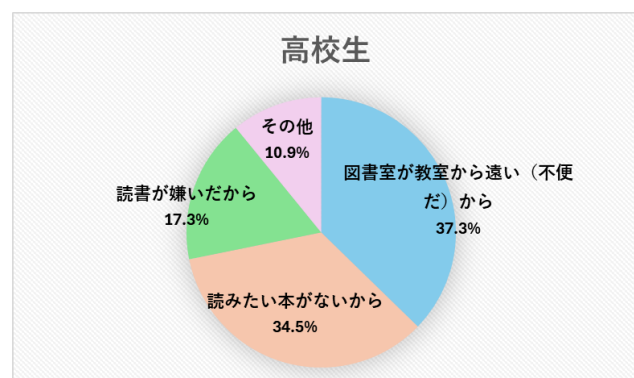
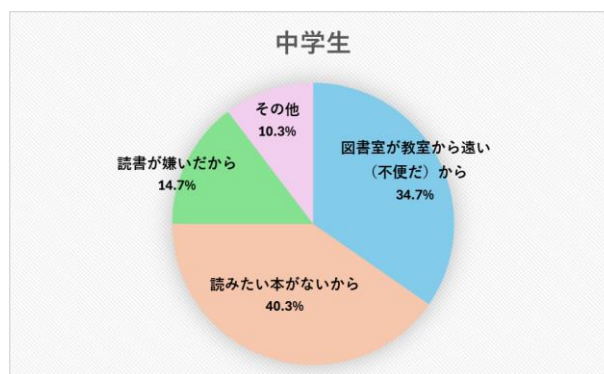
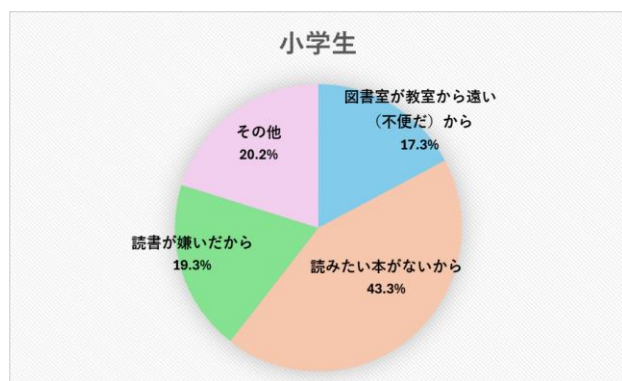


あなたは授業以外で学校の図書室を利用したことがありますか？



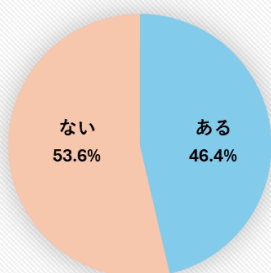
(前問で「③利用しない」と答えた方)

学校の図書室を利用しない主な理由は何ですか？(複数回答可)

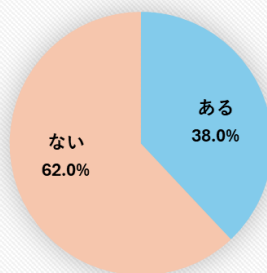


あなたは、この1年間に鈴木図書館（本館・文化センター図書室）を利用したことはありますか？

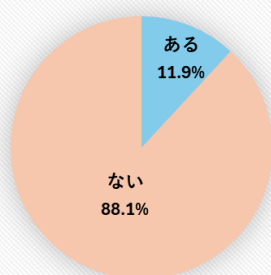
小学生



中学生



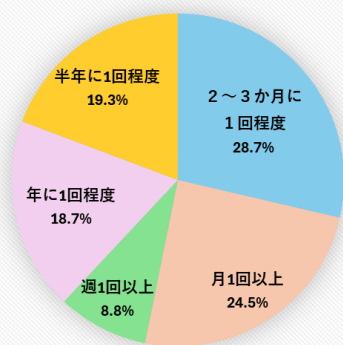
高校生



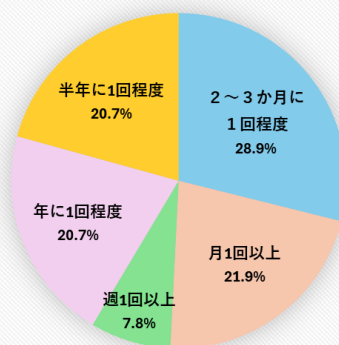
（前問で「①ある」と答えた方）

鈴木図書館（本館・文化センター図書室）はどのくらい利用しますか？

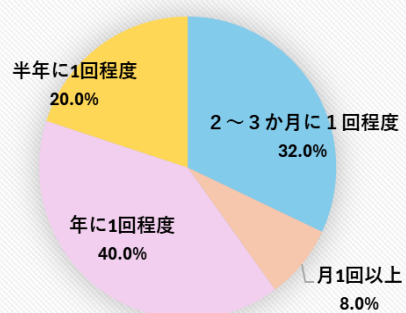
小学生



中学生

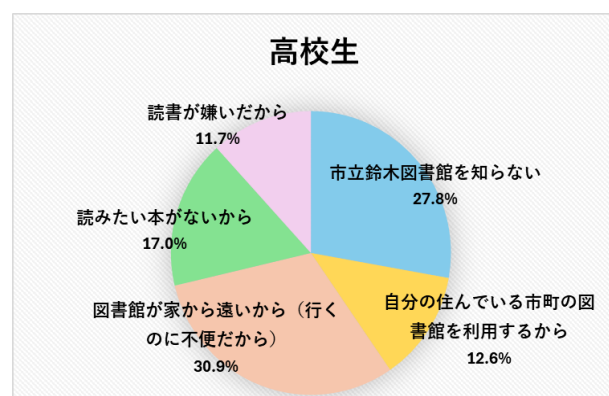
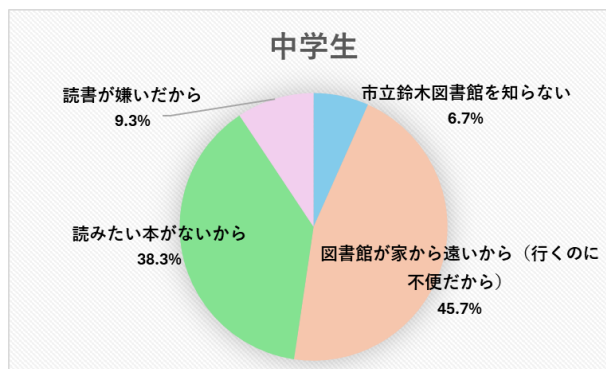
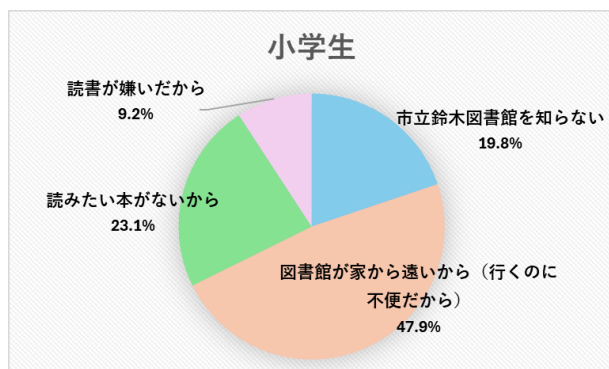


高校生



(前問で「②ない」と答えた方)

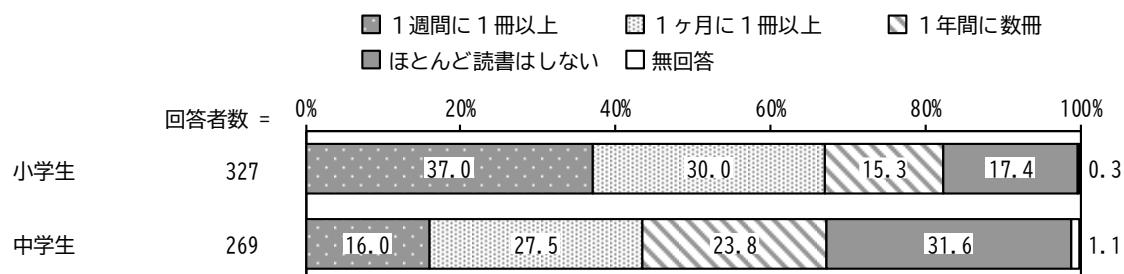
鈴木図書館（本館・文化センター図書室）を利用しない理由は何ですか？(複数回答可)



裾野市教育に関するアンケート調査（読書に関する項目を抜粋）

調査対象：小学校 5 年生、中学校 2 年生）

あなたはどのくらい読書をしていますか。（電子書籍を含みます）



【小学生】

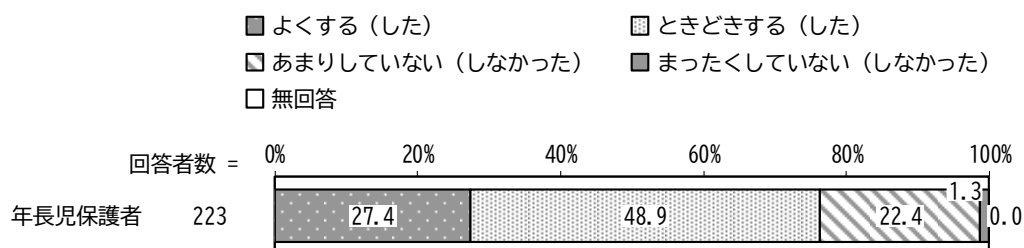
「1週間に1冊以上」の割合が37.0%と最も高く、次いで「1ヶ月に1冊以上」の割合が30.0%、「ほとんど読書はしない」の割合が17.4%となっている。

【中学生】

「ほとんど読書はしない」の割合が31.6%と最も高く、次いで「1ヶ月に1冊以上」の割合が27.5%、「1年間に数冊」の割合が23.8%となっている。

調査対象：年長児保護者

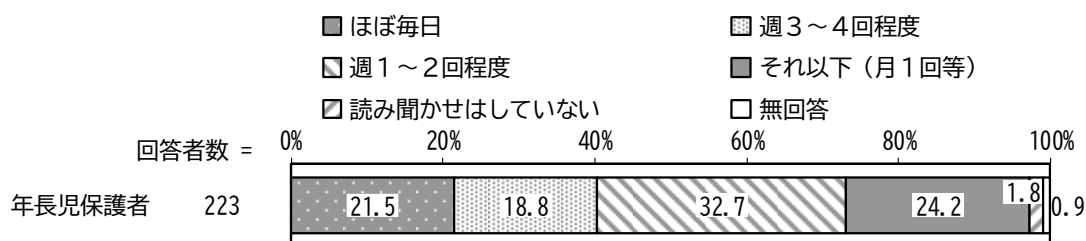
お子さんに読み聞かせをしていますか（していましたか）。



【年長児保護者】

「ときどきする（した）」の割合が48.9%と最も高く、次いで「よくする（した）」の割合が27.4%、「あまりしていない（しなかった）」の割合が22.4%となっている。

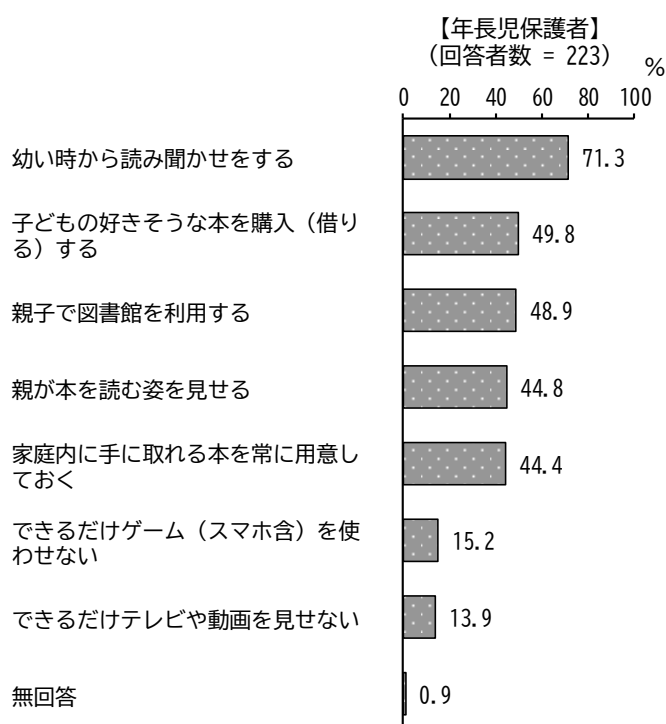
どのくらいの頻度で読み聞かせをしていますか（していましたか）。



【年長児保護者】

「週1～2回程度」の割合が32.7%と最も高く、次いで「それ以下（月1回等）」の割合が24.2%、「ほぼ毎日」の割合が21.5%となっている。

子どもが本を読む習慣を身に付けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

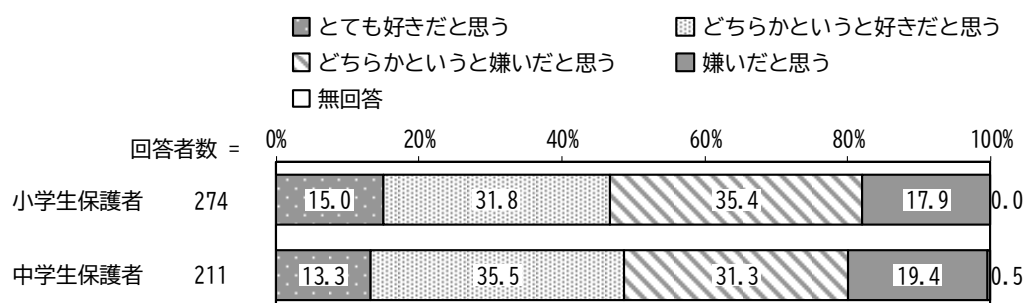


【年長児保護者】

「幼い時から読み聞かせをする」の割合が71.3%と最も高く、次いで「子どもの好きそうな本を購入（借りる）する」の割合が49.8%、「親子で図書館を利用する」の割合が48.9%となっている。

調査対象：小学校 5 年生及び中学校 2 年生の保護者

お子さんは読書が好きだと思いますか。



【小学生保護者】

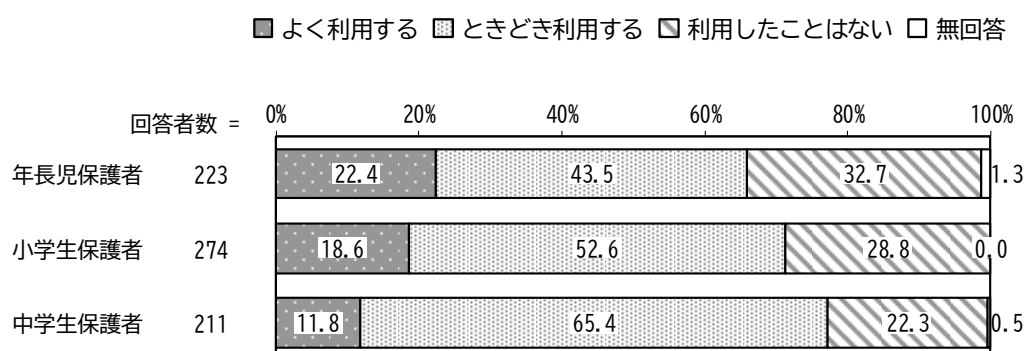
「どちらかという嫌いだと思う」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「どちらかという好きだと思う」の割合が 31.8%、「嫌いだと思う」の割合が 17.9%となっている。

【中学生保護者】

「どちらかという好きだと思う」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「どちらかという嫌いだと思う」の割合が 31.3%、「嫌いだと思う」の割合が 19.4%となっている。

調査対象：年長児、小学校 5 年生及び中学校 2 年生の保護者

あなたは鈴木図書館（文化センター図書室含む）を利用したことがありますか。



【年長児保護者】

「ときどき利用する」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「利用したことはない」の割合が 32.7%、「よく利用する」の割合が 22.4%となっている。

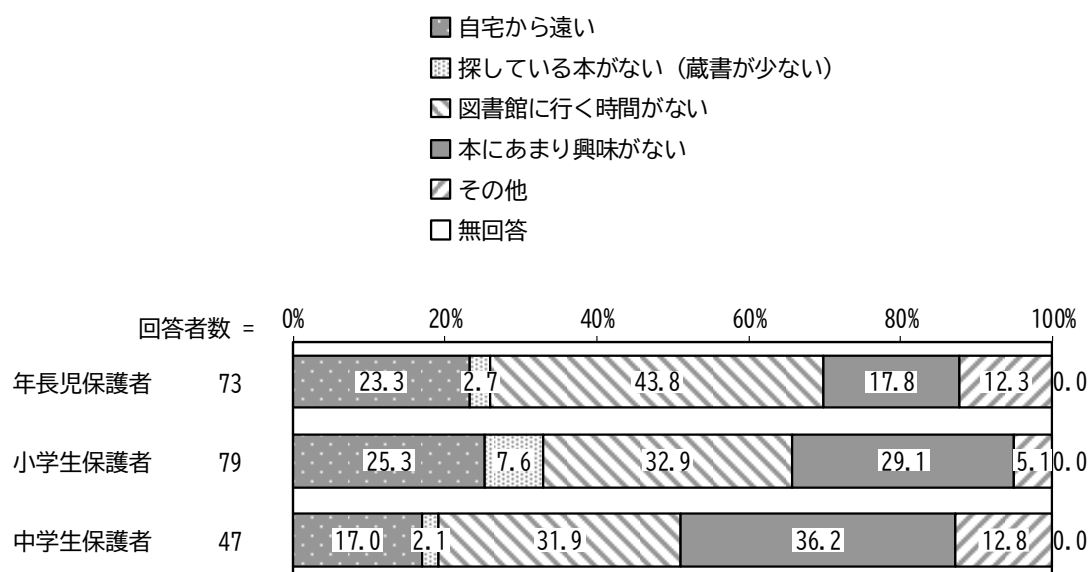
【小学生保護者】

「ときどき利用する」の割合が52.6%と最も高く、次いで「利用したことはない」の割合が28.8%、「よく利用する」の割合が18.6%となっている。

【中学生保護者】

「ときどき利用する」の割合が65.4%と最も高く、次いで「利用したことはない」の割合が22.3%、「よく利用する」の割合が11.8%となっている。

鈴木図書館を利用しない主な理由は何ですか。



【年長児保護者】

「図書館に行く時間がない」の割合が43.8%と最も高く、次いで「自宅から遠い」の割合が23.3%、「本にあまり興味がない」の割合が17.8%となっている。

【小学生保護者】

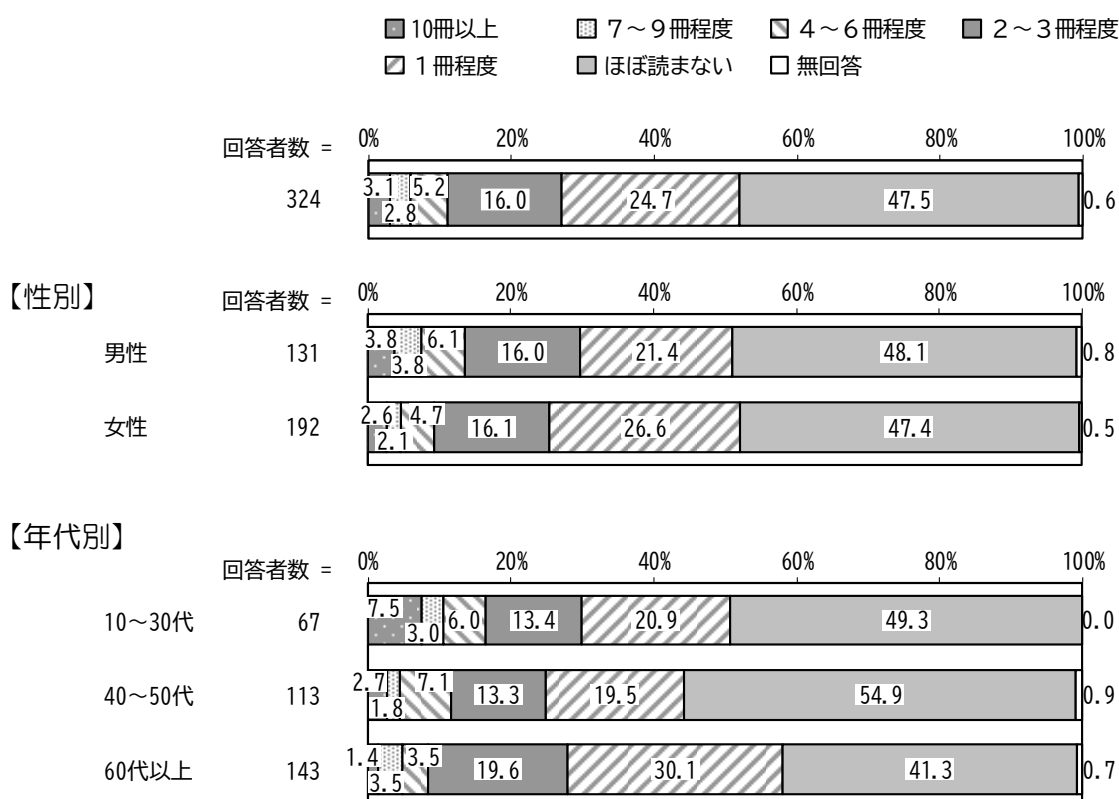
「図書館に行く時間がない」の割合が32.9%と最も高く、次いで「本にあまり興味がない」の割合が29.1%、「自宅から遠い」の割合が25.3%となっている。

【中学生保護者】

「本にあまり興味がない」の割合が36.2%と最も高く、次いで「図書館に行く時間がない」の割合が31.9%、「自宅から遠い」の割合が17.0%となっている。

調査対象：一般市民

あなたは電子書籍を含め1か月におよそ何冊ぐらい本を読みますか。



「ほぼ読まない」の割合が47.5%と最も高く、次いで「1冊程度」の割合が24.7%、「2～3冊程度」の割合が16.0%となっている。

【男性】

「ほぼ読まない」の割合が48.1%と最も高く、次いで「1冊程度」の割合が21.4%、「2～3冊程度」の割合が16.0%となっている。

【女性】

「ほぼ読まない」の割合が47.4%と最も高く、次いで「1冊程度」の割合が26.6%、「2～3冊程度」の割合が16.1%となっている。

【10～30代】

「ほぼ読まない」の割合が49.3%と最も高く、次いで「1冊程度」の割合が20.9%、「2～3冊程度」の割合が13.4%となっている。

【40～50代】

「ほぼ読まない」の割合が54.9%と最も高く、次いで「1冊程度」の割合が19.5%、「2～3冊程度」の割合が13.3%となっている。

【60代以上】

「ほぼ読まない」の割合が41.3%と最も高く、次いで「1冊程度」の割合が30.1%、「2～3冊程度」の割合が19.6%となっている。

第４次 裾野市子ども読書活動推進計画

令和７年３月

裾野市教育委員会 裾野市立鈴木図書館

〒410-1127

静岡県裾野市平松 495

TEL055-992-2342 FAX055-992-2373